

## 研究概要

### 1. 研究名称 または課題名テーマ等

肩関節術後患者の心身機能の調査

### 2. 研究責任者(当院)

所属：リハビリテーション室

氏名：廣田知佐恵

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし

代表名：なし

### 3. 分担研究者

所属：整形外科

氏名：伊勢昇平、山田有徳

所属：リハビリテーション室

氏名：奥村太郎、小川侑男、桑原康太、白井智裕

### 4. 研究対象者

2024年4月1日～2026年4月1日の間に聖隷佐倉市民病院に入院し、肩関節疾患に対して手術を施行し、術前から術後2年間の身体計測および評価を承諾した方

### 5. 研究の必要性

肩関節疾患は多岐に渡るが、外科的処置を要する疾患に高齢者の4大骨折の1つである上腕骨頸部骨折をはじめ、変形性肩関節症、リウマチ肩、腱板断裂症性肩関節症などが存在する。当院ではそれぞれの疾患に対して観血的整復固定術、リバー型人工肩関節置換術、全人工肩関節置換術などが施行される。我々は主治医の指示の下、肩関節の可動域改善を一つの目標として介入している。疾患名ならびに術式が同じ場合でも可動域の術後経過は個人差を認めることを経験する。また、その可動域の改善が乏しいにも関わらず、満足度が高い患者が存在する一方で、可動域の十分な拡大が図れているにも関わらず、満足度が低い患者も存在する。

我々理学療法士や作業療法士は個々の患者へのリハビリテーションを提供するにあたり、患者とのインフォームドコンセントのもと、ニーズやゴールに応じて介入していく。しかし、前述した通り、同一疾患・術式においても術後経過が大きく異なるため、術前、術後の長期計測フォローを行い、疾患ごとの特性や患者の特性（患者背景や術前因子など）を明らかにすることで、良好な治療成績獲得のためのリハビリテーションプログラムの構築・術後経過の予測・患者指導の一助とすることができると思う。

### 6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

研究等によって生ずる個人への影響は、身体計測および評価をおこなうにあたり、身体や心身に負担が生じる恐れがあることである。対策として、実施中に対象者がいつでも中止が出来ることを研究依頼書に記載し、口頭でも十分に説明する。また、体調確認やバイタル測定をおこない、何らかの異常があれば実施を中止する。万が一、実施中に対象者の体調不良があれば、当院リハビリテーション室の急変時対応マニュアルに従い、担当医師に報告し、主治医の指示に従う。あらかじめ、リスクについて紙面と口頭にて十分に説明する。

今回の検討により医学上の貢献の予測としては、疾患や術式、術後回復過程の調査を行い、心身機能の特性を明らかにすることでリハビリテーションのプログラムの構築や術後経過の予測、患者

指導などの一助とすることができる。

**7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)**

連絡先番号：043-486-1151（代表）

担当者氏名：廣田知佐恵

対応時間：8:30-17:00

共同研究において専用窓口がある場合